

地域と大学

第16号

Newsletter No.16, Center for Education and Research of Lifelong Learning

生涯学習教育研究センターの10年

生涯学習教育研究センター長 柴垣勇夫

平成9年度に発足した当センターは、この4月に満10年を迎える。我々専任教員が赴任したのは、平成9年の年末であったからまだ丸10年という感慨がないが、文系の地域貢献の窓口一本化を目指すべくセンターが新たな方向にむけて、近々改編されることとなった。そこでこれまで地域社会に向けて実施してきた事業について、若干ふりかえてみることにしよう。

①公開講座の変化 昭和53年の講座開始当初は年間16回の開催に120名も参加したという。しかし平成10年～12年開学50周年記念静岡大学・SBS文化スペシャル「新世紀に向けて-20世紀はなんだったか」前期・後期合わせて18回の毎回300人を集める大きな公開講座が実施されたのをピークに、平成12年県内4会場の講座を6会場に増加させた頃からやや下降線を辿る。バブルの崩壊と共に始まった余裕のない市民生活の影響も手伝って公開講座への参加も減少した。一方で文化センターの講座も教養文化へとシフトされ講座テーマの多様化の時代へと移っていった。結局開催地を県内4会場におとし、大学が特色をだすための講座や学部横断の講座をセンター企画で実施することとなった。当初はテーマの斬新さで持ちこたえたが、やがてテーマがむつかしいとの意見もおこり再び受講生の減少がみえだした。こうして教養文化と話題性のあるテーマでの講座を、少人数の募集で行う方向へ生き延びる傾向を求めることとなった。しかし地域貢献では最も実績のある事業であるから、なお、大学の顔として存続させる必要がある。

②次に公開シンポジウムを年一回実施することも地域貢献として大きな事業であった。時々の社会問題をテーマに講師を選定し、当初は11月に、3年目からは開学記念に合わせ、6月に実施する形をとった。常に120名程度の参加があったが、こちらも徐々に減少傾向がみられるようになった。広報のまずさもあるが、ニーズの多様化と参加者の高齢化が大きく影響しており、企画に学部との共同作業が望まれる。

③市民の大学への参加を促す市民開放授業は、平成17年度から開始にこぎつけた。これは社会人の授業への直接参加で、地域貢献の大きな役割をもって登場した。当初は130科目程度であったが、現在は語学を含め190科目が開講され、選択の規模が拡大した。専門講座の開講にはまだ問題もあり、検討事項も多いが、今後の期待の大きなものである。

④平成13年度に当時の滝欽二センター長の地域へのとけこみをねらう発案で、「飛ぶ教室」という出前講座や、「きてみて静大」というキャンパスツアーの企画の実施に踏み切り、これまで毎年続けるよう努力してきた。諸事情から「きてみて静大」は中断したが、「飛ぶ教室」は例年一箇所行うことができ、遠隔地での大学講義は喜ばれてきた。こうした事業は着実に軌道に乗りだしてきたが、なかなか人集めの仕事を受けてくれる所は少なく自らが開拓して回らない限り効果はあがらない。大学からの生涯学習発信も足で稼がなければ開拓できないし、地域との接点を見つけることも重要だろう。

これら主要な地域向けの事業はいくつか課題を抱えながらも着実に根を下ろしてきた。その背景には、講座や事業の応援者がいたからだしそれをなくしてはいけぬ。新企画を模索しながら新たな応援者の開拓に努める一方、地道に継続することも必要なことだと思う。(平成19年3月末記す)



市民開放授業事前説明会参加の人たち

平成18年度静岡大学公開講座全17講座が終了

18年度の公開講座は、6月18日（日）の「学ぶって楽しい」及び8月10日（木）の「体験・大学の化学実験」を皮切りに、主に9月、10月の土・日を開催日とした講座が実施され、11月29日の「対人援助の法と倫理」をもちまして全部で17講座が無事終了しました。

今年度は、新たに農学部で高校生向けの実験講座が

開講され、藤枝の附属地域フィールド科学教育研究センターも会場となりました。各講座受講者の応募状況は、以下の表の右欄のようでありました。沼津会場の「茶文化と日本人の暮らし」や人文学部主催の静岡会場での「駿河の歴史と文化の創造」など、教養講座的なものに参加者が多かった傾向がみられました。

番号	主催	講座名	開催日	受講対象	会場	募集人員	応募人員
1	生涯学習センター	学ぶって楽しい!	6/18、	知的障害のある方	静大静岡キャンパス	70	51
2	同上	体験・大学の化学実験	8/10、11	中学生以上	同上	30	17
3	同上	じかに触れよう日本の美	9/2、9、16、23	一般市民	浜松キャンパス	30	29
4	同上	茶文化と日本人の暮らし	9/9、10、23、30	一般市民	沼津市立図書館	50	48
5	同上	太極拳と健康管理	9/9、23、30	一般市民	静大静岡キャンパス	40	22
6	同上	学ぶって楽しい!	10/29、	知的障害のある方	静大静岡キャンパス	70	37
7	同上	対人援助の倫理と法	11/8、15、22、29	一般市民	静岡市産学交流センター	50	26
8	人文	駿河の歴史と文化の創造	9/30～10/28土曜	一般市民	アイセル21	50	57
9	教育	初心者脱出!卓球教室	10/21、10/22	一般市民	静大静岡キャンパス	40	32
10	同上	女性テニス教室	10/3～31、7日間	一般市民(女性)	静大静岡キャンパス	30	16
11	同上	東アジアの新しい茶文化と音楽	10/21、	一般市民	静大静岡キャンパス	56	33
12	教育実践センター	多文化を背景とする子どもたちを教室に迎えて	8/18、	小・中・高教職員	静岡市産学交流センター	20	10
13	同上	ワークショップの新しい理科実験・実習講座	8/21、22	小学校教員	三島本町タワー	20	10
14	同上	特別支援教育の実現に向けた基礎講座	9/30、10/14、25	教育関係者	静大静岡キャンパス	30	20
15	農学部	共生バイオ実験講座Ⅰ	8/26、	高校生	静大静岡キャンパス	24	10
16	同上	共生バイオ実験講座Ⅱ	10/7、	高校生	静大藤枝フィールドセ	25	14
17	国際交流セ	日本語教育を考える	10/7、14、11/4、11、25	日本語教育関係者	静岡市産学交流センター	30	31

ここに掲載しましたように、一昨年から各学部の公開講座を一括して広報するためポスター、チラシに講座全部を一覧表形式で掲載しました。このことが逆に講座内容が詳細に広報されていないという問題を新たに引き起こしました。個々の講座毎に、内容の掲載されたチラシを印刷することも必要となってきたのです。そうなると一括広報の意味が薄れます。今後は他大学で行われているような、講座毎に講師とその講義内容に1ページを割いて掲載した小冊子を、年度初めに印刷することが検討されなければなりません。そのためには、公開講座年度計画を前年度の12月には決定し、詳細な講座内容を掲載した冊子の印刷を前年度末に完成させなければなりません。今後の早急な検討事項と思われます。

さて、生涯学習教育研究センターで主催した実質6講座（「学ぶって楽しい」が表では2講座になったが、テーマ名では1講座）のほかは、各学部主導に基づく公開講座として計画、実施されたものですが、学部がきわめて片寄って実施されているという現状です。これを打破するには、運営

委員の方々による各学部教員への意識の高まりを、ぜひ積極的にすすめていただく必要があると思われます。地域への社会貢献をもっと進めたいものです。



浜松キャンパスでの公開講座「じかに触れよう日本の美」受講風景

平成18年度後期開催の生涯学習教育研究センター事業の報告

1) 「しずだい飛ぶ教室 in 春野」を開催。

静岡大学の教員が県内の遠隔市町村へ出向き、出前講演会を行う「飛ぶ教室」を今年は浜松市春野町で、合併後の中山間地域での町づくりへの提言を主なテーマとして実施しました。

日 時：平成18年11月19日（日）13：30～15：40
場 所：県立春野高校立志館 ホール



春野高校立志館での講演風景

講師と演題：

・石井 潔 教育学部長

「過疎地域における生徒の特別枠について」

・日詰一幸 人文学部教授

「合併後の中山間地における地域づくり」

春野町には「春野の教育振興市民会議」が、ちょうど立ち上がる時期で、浜松市への合併後に懸念される過疎地域での教育問題や、まちの活性化を真剣に考える傾向が地域で高まりつつあるときでもあって、PTA、春野高同窓会、教員、地元春野の教育振興市民会議の方々など70名にもものぼる参加を得て、活発な意見交換が行われました。

2) 後期の生涯学習教育研究センター主催 公開セミナーを実施しました

① 「子どもの性行動の特徴について～適切な性教育の姿を求めるために～」12/1の世界エイズデーを控え健康教育論の立場から家庭での性教育の必要性を考える公開セミナーを保健関係者対象に行いました。

講 師：赤田信一教育学部助教授

日 時：平成18年11月25日（土）10：30～12：00
場 所：静岡市産学交流センター（B-nest）

6階プレゼンテーションルーム／参加費無料

養護教諭や保健所関係の方々の参加を得て、家庭での性教育のあり方を討議いただきました。参加者市民、学生約30名

② 「スポーツで子どもが伸びる環境の作り方」

親や指導者が取り組むべきコト、やってはいけないコトを教育学部でスポーツ科学の専門にしている先生方によって優しく解説する公開セミナーを一般市民対象に行いました。

講 師：村越 真 教育学部教授

吉田和人 教育学部助教授

日 時：平成18年12月2日（土）10：30～12：00

場 所：静岡市産学交流センター（B-nest）

6階プレゼンテーションルーム／参加費無料
NPOのスポーツ団体の指導者や教育関係者、学生の参加があり、判りやすい専門的な解説に皆さん感銘を受けていました。参加者50名。

3) 平成18年度「学習ネットワークと 生涯学習⑨」を開催しました。

日 時：平成19年1月23日（火）14：25～15：55

場 所：静岡キャンパス共通教育A棟301室

大学と地域をeラーニングを活用して結び、各々がネット配信の掲示板システムを利用し討論しあう、新たな学習ネットワークの構築方法を検討する目的で実施しました。



学習ネットワークと生涯学習⑨のパネルディスカッション風景

事例報告と講師：

1) 「生涯学習のツールとしてのeコミュニティ」

東海大学文学部教授 河井孝仁

2) 「生涯学習に必要な学力とは? ~ Web 掲示板利用のグループ学習授業の成果から~」

教育学部講師 益川弘如

3) 「『まちのお宝さがしプロジェクト』がめざすもの」
まちのお宝探しプロジェクト 村上 敏

パネルディスカッション

各講師の方々/司会:菅野文彦教育学部教授

学生、教職員等80名の参加のもと、質疑も多く交わされ、大変好評でした。

4) 県公民館連絡協議会共催事業 「生涯学習指導者研修事業」盛況裏に終了

日 時:平成19年1月31日(水) 10:30~16:00

会 場:庵原郡富士川町中央公民館

研修テーマ:「地域づくり・人づくりの拠点としての公民館」

近年公民館を取り巻く環境は大きく変わり、地域社会の中での期待される役割の中味も変わりつつあります。地域課題を探り、住民との連携をはかって活動する各地の公民館に学びながら、公民館と地域住民との連携のあり方を検討する目的で開催しました。

基調講演:「これからの公民館に求められること~地域づくりの拠点を目標して~」

秋田大学教育文化学部助教授 原 義彦

事例報告

- ・「地域の家庭教育支援の拠点としての公民館」
富士市立今泉公民館長 鈴木妙子
(平成18年度文科省表彰優良公民館)
- ・「自然・野外体験に基づく子どもの育成支援」
袋井市立袋井北公民館長 永井宏憲
(平成18年度文科省表彰優良公民館)
- ・「富士川っ子が育つ会の活動事例」
富士川っ子が育つ会会長 柚木恵美子
- ・「地域に根ざした公民館活動」
島田市初倉公民館長 永田りょう



指導者研修事業でのパネルディスカッションの様子(富士川町中央公民館)

パネルディスカッション

司 会:柴垣勇夫生涯学習教育研究センター長

コメンテーター/浜江かさね教育学部助教授/各事例報告者/静岡大教育学部生涯学習専攻学生(富士川っ子が育つ会での活動者)

地域づくりに取り組む公民館でのリーダー養成や生涯学習関連施設との連携、NPO法人と連携などが熱く語られました。特に富士川っ子が育つ会の事業に社会教育実習として参加した学生の発表は、地域の人々との交流を深めるものでした。公民館職員・教育委員会関係者、学生等80名の参加で盛況でした。

5) 富士川町の静岡大学特別公開講座の実施

静岡大学特別公開講座が富士川町で開催されました。後期は、テーマ「アフリカの生活世界」で行われました。

- ① 10/5(木) 森の暮らし1 狩猟採集社会の分配と平等
 - ② 10/12(木) 森の暮らし2 焼畑と混作
 - ③ 10/19(木) 乾燥地の暮らし 牧畜の世界
 - ④ 10/26(木) 都会の暮らし 貨幣経済と交換
 - ⑤ 11/9(木) サバンナの音楽 太鼓に込めたメッセージ
- それぞれ上記の小テーマで、小松かおり人文学部助教授の担当で実施され、各回20名の方の参加がありました。

6) 18年度後期・市民開放授業終わる

前期に引き続き後期も10/2(月)から市民に大学の授業が開放されました。多くの市民の方が学内にお見えになりました。

市民開放授業に参加されている方は、61名(静岡57名、浜松4名)で、その内2~4科目を一人でお取りになった方もみえ、78科目を延べ157人の方が受講されたことになりました。

19年度もまた4月から募集をいたします。

3/22(木)に静岡地区(B-nest)、3/23(金)に浜松地区(浜松キャンパス総合研究棟)にて事前説明会を実施いたしました。団塊世代の定年後のクオリティライフに加えていただく有意義な事業だと考えます。

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し広報します。各種情報をセンターまでお寄せ下さい。
ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

地域と大学 第16号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成19年4月1日発行

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836(理学部B棟1階)
静岡大学生涯学習教育研究センター
TEL/FAX 054-238-4817(資料室・受付)

事務局 静岡大学研究協力・情報図書チーム TEL054-238-4317